

被造物保護のための共同メッセージ

この1年以上にわたり、貧しい人も裕福な人も、弱い人も強い人も含めて私たち皆が、世界的なパンデミックの壊滅的な影響を経験してきました。ある人はより保護され、ある人はより脆弱でしたが、感染が急速に拡大し、安全を確保するための努力について互いに依存していました。私たちは、この世界的な大災害に直面し、全員が安全になるまで誰も安全ではないこと、私たちの行動が実際に互いに影響し合うこと、そして今日の行動が明日の出来事に影響することを実感しました。

これらの教訓は新しいものではありませんが、私たちは新たにそれらに直面しなければなりません。この瞬間を無駄にしないようにしましょう。私たちは、将来の世代にどのような世界を残したいのかを決めなければなりません。神は命じます。「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」（申命記 30：19b）。私たちは今までとは違う生き方を選択しなければなりません。

9月は多くのキリスト者によって「被造物の期節」として祝われ、神の被造物のために祈り、配慮する機会となっています。11月にグラスゴーで開催される世界のリーダーたちによる地球の未来についての討議に向けて、その指導者たちのために祈り、私たち皆がどのような選択をしなければならないかを考えます。したがって、私たちは教会の指導者として、信念や世界観にかかわらず、すべての人に、地球と貧しい人々の叫びに耳を傾け、自分の行動を吟味し、神が私たちに与えられた地球のために意味のある犠牲を誓う努力をすることを呼びかけます。

サステナビリティ（持続可能であること）の重要性

私たちの共通の伝統であるキリスト教では、聖書と聖人が、現在の現実と今見えているものよりも大きな約束の、両方を理解するために必要な明確な視点を提供しています。スチュワードシップの概念、すなわち、神から与えられた財産に対する個人と集団的な責任は、社会、経済、環境の持続可能性を実現するための重要な出発点となります。新約聖書では、金持ちでありながら愚かな男が、自分の有限の終わりを忘れて穀物を大量に蓄えたことが記されています（ルカ 12：13-21）。また、放蕩息子が早くに遺産を手に入れたにもかかわらず、それを浪費して飢える羽目になったことを知っています（ルカ 15：11-32）。私たちは、共通の家が嵐に耐えられるように岩の上に建てるのではなく、砂の上に建てるという短期的で一見安価な選択肢を採用しないように注意されています（マタイ 7：24-27）。これらの物語は、私たちがより広い視野を持ち、人類という大きな物語の中で自分の居場所を認識するように促しています。

しかし、私たちは逆の方向に進んでしまいました。将来の世代を犠牲にして、自分たちの利益を最優先してきたのです。私たちの富に集中することで、自然の恵みを含む長期的な資産が目先の利益のために枯渇することになります。テクノロジーは進歩のための新たな可能性を広げましたが、同時に無制限に富を蓄積することも可能になり、多くの人は、他の人々や地球の限界に対する配慮を欠いた行動をとっています。自然は回復力がある一方で、繊細です。私たちはすでに、自然を守り抜くことを拒否した結果を目の当たりにしています（創世記 2：15）。今、この瞬間、私たちには悔い改め、

覚悟を決めて逆方向に向かうチャンスです。私たちは、生き方、働き方、お金の使い方において、利己的な利益ではなく、寛大さと公平さを追求しなければなりません。

貧困に苦しむ人々への影響

現在の気候危機は、私たちがどのような人間であり、神の被造物をどのように見て扱っているかを雄弁に物語っています。私たちは厳しい正義の前に立っています。生物多様性の損失、環境悪化、気候変動は、私たちの行動の必然的な結果であり、私たちは地球が耐えられる以上の資源を貪欲に消費してきたのです。しかし、私たちは深刻な不公平にも直面しています。それは、これらの侵害によって最も悲惨な結果を背負っているのは、地球上で最も貧しい人々であり、その原因について最も責任を負っていない人々なのです。私たちは、創造を喜び、すべての人を神の似姿に創造する正義の神に仕えています。同時に、貧しい人々の叫びにも耳を傾けています。このような壊滅的な不正を目の当たりにしたとき、苦悩をもって対応することが、私たちの中に生まれながらにして求められているのです。

今日、私たちはその代償を払っています。ここ数ヶ月の異常気象や自然災害は、気候変動が将来の課題であるだけでなく、生存に関わる緊急の問題であることを、大きな力と大きな人的コストをもって私たちに改めて示しています。広範囲にわたる洪水、火事、干ばつが大陸全体を脅かしています。海面が上昇し、コミュニティ全体が移転を余儀なくされ、サイクロンは地域全体に壊滅的な被害を与え、生活と人生を台無しにしています。水が不足し、食糧供給が不安定になることで、何百万人もの人々が紛争や避難を余儀なくされています。小規模な農業を営んでいる地域では、すでにその傾向が見られます。今日では、高度なインフラであっても、異常な破壊を完全に防ぐことができないのが先進国の現状です。

明日はもっと悪くなるかもしれません。今、私たちが「神と共に働く仲間」（創世記 2：4-7）として、この世界を維持する責任を負わなければ、今日の子どもたちや若者たちは、破滅的な結果に直面することになるでしょう。私たちは、自分たちの未来が脅かされていることを理解している若者たちの声をよく耳にします。その世代のためにも、目先の利益だけでなく、将来の利益を考え、食事、旅行、支出、投資、生活の仕方を変えていく選択をしなければなりません。私たちは、自分たちの世代が犯した罪を悔い改めます。私たちは、世界中の若い姉妹や兄弟とともに、神の約束にますます応えていく未来のために、献身的に祈り、行動します。

連携の必要性

今回のパンデミックで、私たちは自分たちがいかに脆弱であることを学びました。社会システムは崩壊し、すべてをコントロールすることはできないことがわかりました。私たちは、これまでのお金の使い方や社会の仕組みが、すべての人に利益をもたらしていないことを認めなければなりません。私たちは、健康、環境、食糧、経済、社会など、すべてが深く関連している一連の危機にさらされ、弱さと不安を感じています。

これらの危機は、私たちに選択を迫っています。私たちは、近視眼的に利益を追求して危機に対処するか、それともこれを転換と変革の機会と捉えるか、どちらを選択するかという特異な立場にあります。人類を家族のように考え、共通の利益に基づいた未来に向けて協力し合うことができれば、私たちはまったく違った世界に住むことができるでしょう。誰もが幸せになれる人生のビジョンを共有することができます。私たちは共に、愛と正義と憐れみをもった行動を選択することができます。最も弱い立場にある人々を中心に、より公平で充実した社会に向けて共に歩んでいきましょう。

しかし、そのためには変化が必要です。私たち一人一人が自分の資源の使い方に責任を持たなければなりません。この道を進むには、すべての教会が被造物への配慮に向けて、これまで以上に緊密な協力関係を築く必要があります。私たちは、コミュニティ、教会、都市、そして国家として、ルートを変え、人々の間にある伝統的な障壁を取り払い、資源の奪い合いをやめ、協力し合うための新しい方法を見つけなければなりません。

行政のトップ、企業の経営、雇用主、資金を運用する人など、より広い範囲で責任を担う人々に対して、次のように提言します。「人間を中心とした利益を選択し、すべての人の未来を守るために短期的な犠牲を払い、公正で持続可能な経済へ移行するためのリーダーになってください。」。「多く与えられた者には、多く求められる」（ルカ 12:48b）。

環境の持続可能性の緊急性、持続的な貧困への影響、そして世界的な協力の重要性について、私たち3人が一緒に考えなければならぬと感じたのは今回が初めてです。私たちは共に、地域社会を代表して、すべてのキリスト者、信徒、善意の人々の心に訴えます。地球と人々の未来を決めるためにグラスゴーに集うリーダーたちのために祈ります。もう一度、聖句を思い起こします。「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」（申命記 30：19b）。命を選択するということは、犠牲を払い、自制心を働かせることです。

誰でも、どこにいても、私たち皆が、気候変動と環境悪化という前例のない脅威への集団的な対応を変えるために、役割を果たすことができるのです。

神の被造物への配慮は、献身的な応答を必要とする霊的な使命です。今が正念場です。子どもたちの未来と、私たちの共通の家の未来は、この取り組みにかかっているのです。

2021年9月1日

エキュメニカル総主教	バルトロメオ
ローマ教皇	フランシスコ
カンタベリー大主教	ジャスティン